



フロンティア・スピリット (松本市)

廃棄物リサイクルの 限りない向上を目指す

環境問題が深刻化する中、産業廃棄物業界は、相次ぐ法改正などにより規制が一段と強化されている。(株)フロンティア・スピリットは、関連会社も含め廃棄物の総合処理を行う中南信地区最大級の業者だが、リサイクル率の限りない向上を目指して環境保全に努めていく。

大型投資で規制を大幅にクリア

近年、毎年のように法改正で規制が強化されてきた産廃業界。昨年12月には、ダイオキシン類対策特別措置法により焼却炉に対する規制が大幅に強化された。焼却能力が1時間あたり2～4トンの既設焼却施設の場合、排ガス中のダイオキシン類の濃度基準は、従来の80ナノグラム/㎡から5ナノグラム/㎡以下に定められた。これに対し、フロンティア・スピリットは事前に約3億円の大規模投資を行い、バグフィルタを導入して対応。今年1月、保健所立ち入り検査の際の数値は0.23と基準を大幅に下回った。

1995年10月に設立された同社は、現在では中南信地区最大級の産廃業者に成長。2001年7月には業界に先駆けてISO14001の認証も取得している。医療廃棄物などを扱う(株)エコロジカル・サポート、環境整備を目的とする(株)環境科学といった関連会社まで含めると、総合廃棄物処理業として確固たる地位を築き上げている。

昨年から県内初の無機汚泥再生も

同社の経営方針の大きな柱となっているのは、廃棄物リサイクルの推進である。現在でも、がれき類など既に100%再生しているものもある。また、昨年無機汚泥の再生処理(改良土化)施設・エコプラント塩尻を建設。県

内初となる汚泥のリサイクルを開始した。

木くず、廃プラスチック、繊維くずなどのリサイクルで、固化燃料として再生する計画も進行中だ。さらに、これまで最終処分場に持ち込むほかなかった焼却灰の再生も視野に入れている。

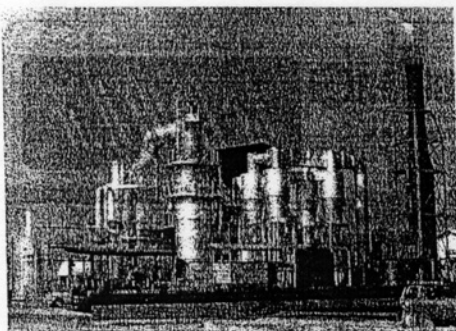
こうしたリサイクルの推進は、産廃処理場の不足など、業界が、いや我々すべてが抱える課題に対する解決策の提示でもある。

今月末には地域のゴミゼロに取り組む

同社の今井昭憲取締役は、「業界ばかりでなく、すべての人がゴミ問題に対する認識を改める必要がある」と口にする。環境を保持するためには、廃棄物は適正に処理されなければならず、そのためにはコストがかかる。また、不法投棄などが行われた場合は、排出事業者にも重い責任が生じる。これらのことを踏まえたうえで、同社では、排出事業者側が適正に処理できる業者をしっかりと見極めることの重要性を指摘する。

度重なる規制強化で、業者間淘汰が進んでいることも事実。資金力や処理能力を備えた業者しか生き残れなくなっている。

処理施設建設などを巡って、住民との合意形成の難しさも増しているが、フロンティア・スピリットは地域密着を強く意識している。今月末には、同社の社員を中心に約100名が参加して、地域のゴミゼロ運動に取り組む。こうした地域貢献活動やリサイクル推進は、従来の業界イメージを塗り替えるものとしても大きな期待が寄せられている。



松本市今井にある同社の焼却処理施設

【株式会社フロンティア・スピリット】1995年(平成7年)10月設立、資本金3000万円、松本市今井4957、登記面本店=松本市笹賀3984-10、代表取締役横澤三郎氏。産業廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ、2002年7月期には売上高約19億5800万円を計上している。